

競技・審判上の注意事項

- 1 競技は、2021年度(公財)日本バドミントン協会競技規則・大会運営規程・公認審判員規程および新型コロナウイルス感染症対策に伴うバドミントン活動ガイドライン(公益財団日本バドミントン協会)に準じて行います。
- 2 試合コール後5分以内にコートインしない選手は、棄権とみなします。
- 3 進行上タイムテーブル等の変更を行う事がありますので、進行係のアナウンスに注意をお願いします。
- 4 競技中の服装は、大会運営規程第4章第23条・第24条による。但し、選手の背面表示は申し込みチーム名と背面表示を同一標記とします。(大阪・大阪府のみの表示は不可とします)
- 5 試合が連続する時は試合と試合の間に最大20分以内の休憩時間を設けます。
- 6 **コロナウィルス感染拡大のため大会スタッフの動員が困難な状況です。**
主審・線審はセルフジャッジを原則としますので、公正中立な立場で審判を行ってください。
敗者の方は主審をお願いいたします。場合によって完全セルフジャッジをお願いすることもあり得ます。
- 7 サーバーのラケットで打たれる瞬間に、シャトル全体が必ずコート面から1.15m以下でなければならない。
- 8 試合中、選手・監督・コーチ、並びに大会役員以外は、競技場に立ち入らないこととします。
また、監督・コーチは、マッチにふさわしい服装で臨むこととし、ジーンズ・ビーチスタイル・バミューダ・ショーツ・スリッパ・サンダル・裸足は禁止とします。
また、コーチ席は設置しません。
- 9 試合中、タオル・ラケット・ドリンク等は主審の横に各自バッグを置きそこに収納して下さい。
(カゴは設置しません)
この際、ドリンクは倒れてもこぼれない容器(スクイズボトル等)を使用して下さい。”
- 10 プレーヤーが汗をかき、その汗を払い、散らしたりした場合、またはそれ以外の行為でコートやその周辺を汚している場合、主審はそのような行為は決して容認できるものではないことを留意させなければならない。必要ならば競技規則16条7項に沿って適切に対処します。
- 11 試合中、携帯電話が鳴った時は16条6項(4)の違反とみなし、16条7項を適用します。
- 12 審判の判定に対する「抗議」「異議」は認めません。判定に対して疑問のある場合は、当該プレーヤーが「質問」することは認めます。
- 13 横断幕を貼る場合は、養生テープを使用する。ガムテープは使用しないで下さい。
- 14 その他
 - ① 大会運営規程19条については以下の通りとする
本会主催の第1種大会の個人戦においては組合せ決定後、エントリーの変更はできない。また、試合を棄権したものは、それより後の同一種目及び同大会にエントリーしている他の種目全てにおいて出場できない。ただし、ダブルスの場合、棄権したプレーヤーのパートナーは除くものとする。なお、本規程の運用に関し、棄権行為が本人または本人以外の者を有利にする目的でなく、正当な理由をもった棄権行為として競技役員長(レフェリー)が判断した場合、競技役員長(レフェリー)の判断により棄権後の他のエントリー種目に出場することを認めることがある。
 - ② 新型コロナウイルス感染防止に関するガイドライン<抜粋>
 - 1) 会場への入場時の注意
 - ・会場内での諸注意等を事前周知すること。
 - ・会話をする場合は、マスクの着用を励行すること。
 - ・席を移動しての応援や手すりからの応援しないこと。
 - ・ウォーミングアップは距離をあけること。

2) 競技区域内での注意

- ・コートサイドには、選手が使用するカゴやドリンクケースを設置せず、各自バッグを持参させ、飲み物も各自バッグに収容すること。
- ・コーチ席は設置しないこととする。
- ・コートのモップ掛けは、ゲーム毎と試合終了後に行うこと。
- ・毎試合終了後、審判台・サービスジャッジ席・線審席・コーチ席・サービス高測定器・得点板等を消毒すること。〈椅子下設置の消毒シートで消毒のこと〉
- ・主審、サービスジャッジ、線審、得点係等は、マスクを着用すること
水分補給に留意し、熱中症にならないよう留意すること。
- ・サービスジャッジ、線審は手袋（ビニール・ゴム）を使用すること。
- ・選手同士・審判員との握手はしないこと。
- ・トスは、フィジカルディスタンスを確保して行うこと。
- ・コールは、必要最小限とすること。
⇒「プレイ」「フォルト」「レット」「ゲーム」等のみで行う。
⇒主審・サービスジャッジは、違反の種類を示す指定の合図を行い、コールはしない。
⇒線審は、指定の合図を行い、コールをしない。（主審とのアイコンタクトが重要）
⇒得点板がある場合は、スコアのコールはしない。
- ・シャトルの交換は、選手がシャトルを直接筒から取り出すか、選手が一定の距離にきたら、投げて渡すこと。また使用済みシャトルは、選手が回収ボックス（カゴ）に入れること

3) 競技中の留意事項

- ・ラケット・タオル等の用具の貸借はしないこと。
- ・床の汗拭きは、モップもしくは所定の用具を使用すること
- ・汗をコート内やコートサイドに切り投げないこと。
- ・シューズの裏を手で拭かないこと。
- ・試合中の意識的に声出しをしないこと。
- ・プレーヤー同士やコーチとハイタッチ等の接触はしないこと。
- ・コーチングは一定の距離を保ち、必要最小限に短時間でおこなうこと。

4) 試合後の注意

- ・ゴミは全て持ち帰り自宅で処分すること。
- ・自身の試合が終了したら、観戦や応援をせず、速やかに帰宅すること。但し敗者審判は必ず行うこと。